

2013年8月21日 発

学校法人東北学院 法人事務局広報部広報課
〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1
電話: 022-264-6423 / E-Mail: koho@tohoku-gakuin.ac.jp

報道関係者各位

更地の向こう側 —解散する集落「宿」の記憶地図—

取材のお願い

東北学院大学教授陣が取材・執筆した、宮城県気仙沼市唐桑町を舞台とした『更地の向こう側—津波で失われた集落の記憶と記録—』が出版されました。

この度、取材に協力いただいた唐桑・宿浦の仮設住宅で、出版された本の謹呈式が行われます。

記

日時：8月24日（土）

10：30～

場所：旧唐桑小仮設住宅
仮設集会所

謹呈式出席者

- 植田今日子 教養学部地域構想学科准教授
- 伊鹿倉正司 経済学部経済学科准教授
- 綱本 武雄 イラストレーター



【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学教養学部地域構想学科 植田研究室
もしくは、広報部広報課

022-373-3369

022-264-6423

この度、東北学院大学研究者の学部横断研究プロジェクト「震災・原発に関わる研究または知的支援活動」の一つの成果として、宮城県気仙沼市唐桑町を舞台とした『更地の向こう側 解散する集落「宿(しゆく)」の記憶地図』が出版されました。

本書の舞台は、東日本大震災による大津波で62世帯中54軒の家が流された宮城県気仙沼市唐桑町の集落「宿(しゆく)」。この集落は『津波による危険の著しい区域』を意味する「災害危険区域」に指定されました。やがて跡形もなく更地になってしまうこの集落は、東日本大震災の津波で「解散」の道をたどることになりました。

東北学院大学トポフィリアプロジェクトは、文学部、経済学部、教養学部などの教員9名からなるチームです。経済学、地域社会学、農村社会学、民俗学、歴史学、人類学、言語学など学部・学科の壁を超える研究者が現地に入り、一年半にわたって「宿」の方々の語りに耳を傾けてきました。

そんな多分野の研究者らが、過去にも幾度も津波の被害を受けながら、繰り返し港町として発展してきた歴史を聴き取り、更地の向こう側にある未来を見通すことをひとつのプロジェクトとして試みました。その結果、「宿」に暮らした人々の喜怒哀楽に彩られた生活を丹念に綴った書として結実したのです。ぜひ本書を手にとってご覧ください。

***トポフィリア**

地理学者 イーファー・トゥアンらが提唱した概念で「topos=場所+philia=愛着」から「人と、場所(トポス)または環境との間の情緒的な結びつき」、「人々が持つ場所(トポス)への愛着」という意味。



『更地の向こう側 解散する集落「宿」の記憶地図』 編著者 東北学院大学トポフィリアプロジェクト:

- 経済学部経済学科 伊鹿倉正司 准教授
- 教養学部地域構想学科 植田今日子 准教授(プロジェクト代表)
- 経済学部共生社会経済学科 熊沢 由美 准教授
- 教養学部言語文化学科 酒井 朋子 講師
- 工学部環境建設工学科 櫻井 一弥 准教授
- 教養学部地域構想学科 佐久間政広 教授
- 教養学部地域構想学科 菅原 真枝 准教授
- 文学部歴史学科 七海 雅人 教授
- 教養学部言語文化学科 宮本 直規 講師
- イラスト: 綱本 武雄

【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学教養学部地域構想学科 植田研究室 022-373-3369
もしくは、広報部広報課 022-264-6423